

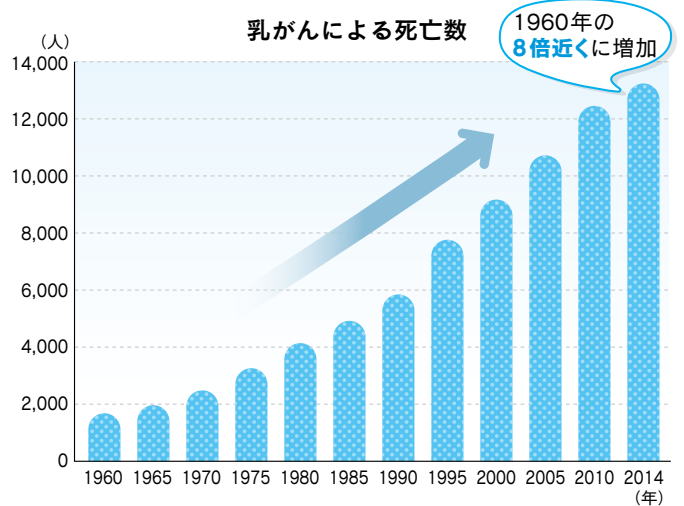
乳がん

検診の
スズメ

乳がんは「乳腺」にできる悪性腫瘍です。乳腺は、母乳を作る「小葉」と、母乳の通り道である「乳管」で構成され、乳がんの多くは乳管で発生します。発生や進行には女性ホルモンが影響しており、女性のライフサイクルや生活習慣の変化から、近年大幅に増加しています。

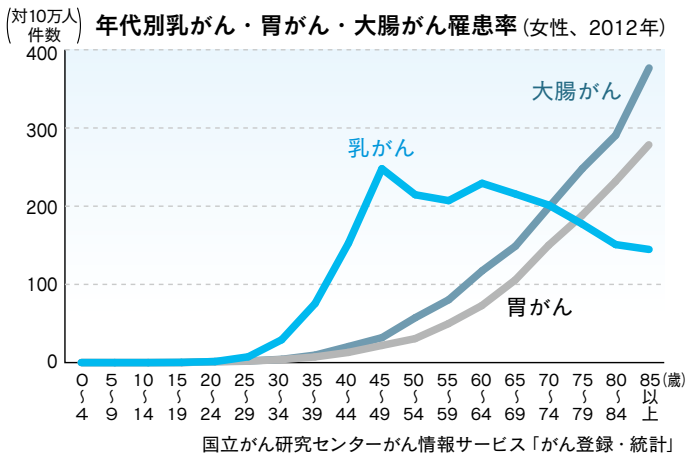
乳がんの危険因子

- 初潮が早い・閉経が遅い
- 妊娠や出産経験がない
- 初産年齢が遅い
- 授乳歴がない
- 閉経後のホルモン補充療法
- 肥満(閉経後)、飲酒、喫煙
- 高身長 他



国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

40歳から50歳代が多い



乳がんの罹患数は年間7万件以上となっており、女性がかかるがんでもっとも多いがんです。胃がんや大腸がんは高齢になるほどかかりやすいがんですが、乳がんは40歳から50歳代と比較的若い年代から多いのが特徴です。

乳がんは早期に発見して治療をすれば予後がよいので、症状が出る前に検診で早期発見することが大切です。

症状として多いのは、乳房のしこり、乳頭からの分泌液、乳房の痛みなどです

気になる症状があったら、40歳未満の方でも受診しましょう



乳がん検診を受けましょう

国では、40歳以上の女性に、問診およびマンモグラフィ(乳房X線検査)による乳がん検診を、2年に1度受診することをすすめています。遺伝性のがん(※)が疑われる場合は40歳未満でも検診を受けましょう。また、気になる症状がある場合は、検診を待たずに早めに専門医を受診すること

が必要です。乳がん検診では、マンモグラフィのほか、超音波(エコー)検査なども行われています。

(※) 家系内に若くしてがんにかかったり、何度もがんにかかった人がいる、また特定のがんが多く発生しているなどの場合。

再検査は必ず受けましょう

乳がん検診を受けた結果、異常が見つかった場合は再検査や精密検査を受ける必要があります。再検査が必要だからといって、がんであるとはかぎりません。また、検診で

発見される乳がんの多くは早期がんといわれます。再検査をすすめられたら必ず受診しましょう。

マンモグラフィ(乳房X線検査)

国が推奨するマンモグラフィは、2枚の板で乳房を片方ずつ挟んで撮影します。圧迫による痛みもありますが、月経前の1週間を避けると痛みが少ないといわれます。



超音波(エコー)検査

乳房に超音波をあて、はね返ってくる反射波を画像化する検査です。乳房表面にゼリーを塗って、その上から器具をあてます。痛みはなく、X線を使わないので、妊娠中や妊娠の可能性のある人でも検査が受けられます。乳腺が発達した若い人に向いています。

